

J A 福女協だより

創刊号

防災特集号

vol.1
令和2年度／第1号
JA福岡県
女性協議会
福岡市中央区天神4丁目10番12号
令和3年3月発行
問合せ:092-711-3807

J A福岡県女性組織メンバーの皆様には、日頃より女性組織活動にご支援ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

この度、J A福岡県女性協議会では、県内の全女性組織メンバーを対象とした「J A福女協だより」を発刊することになりました。地域の女性組織メンバーの活性化と女性組織メンバーとの連携強化をはかつてまいりたいと考えております。

2017(平成29)年7月、未曾有の被害をもたらした九州北部豪雨から3年の歳月が過ぎたところではあります。が、大惨事に見舞われた事実を、忘れずにはいられない日々を過ごしています。

そのような中、日頃の防災意識を高めるきっかけとしていたくため、本だよりの創刊号は防災特集としました。作成にあたっては、J A筑前あさくらの女性部員の皆様より、日頃の災害に対する備えの大切さや教訓を学ぶため、アンケート調査にご協力いただきましたこと、厚く御礼申しあげます。

今年度は新型コロナウイルスの影響により、予期せぬ事態となってしまい、思うような活動ができる中ではございませんが、「J A福女協だより」を通じて、少しでも部員同士のつながりの場となりますように、さらには、今一度、身の回りを見渡し、いつやつてくるかもしない自然災害に備え、防災・減災に一緒に活動していきましょう。



J A北九 女性部による防災手ぬぐいバッグづくりの様子

J A福女協だより 創刊によせて



会長 安田 美佐子

J A筑前あさくらにおかれましては、災害を乗り越え、今もなお、J Aが総力を挙げて地域農業、地域社会の復興に取り組まれていることに敬意を表します。

近年、気候変動や温暖化の影響によって、かつては考えられなかつた集中豪雨などの大規模災害が、何時何処で発生するか予測不可能な時代となってきた。

同組合が、新型コロナウイルス感染症の影響により、女性部活動など、J Aが取り組む協同活動全般に及ぶ停滞を招いており、この難局を乗り越えていかなければならぬ状況となっています。

する備えの大切さや教訓を学ぶため、アンケート調査にご協力いただきましたこと、厚く御礼申しあげます。

非常時用持ち出しリスト〈保存版〉

※冷蔵庫など日頃から目に着く場所に貼って、ご活用ください。

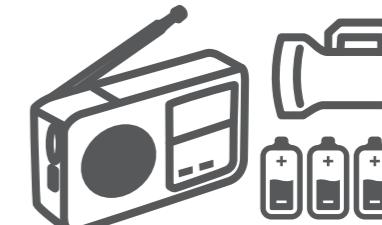
貴重品



現金(10円玉含む)・健康保険証
通帳・印鑑・カード／など

10円玉は公衆電話用に。通帳、カード、健康保険証、運転免許証などは番号を控えたコピーも用意しておくとよいでしょう。

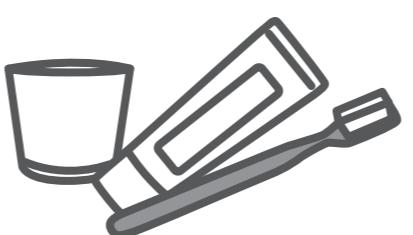
避難用具



携帯ラジオ・懐中電灯・軍手
乾電池・防災ズキン／など

携帯ラジオは、停電時の可能性の高い被災地での情報収集のために。携帯ラジオや懐中電灯の予備電池も忘れずに。

生活用品



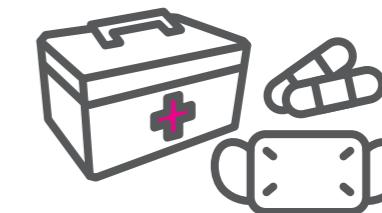
毛布(アルミシート)・
簡易トイレ・口腔ケア用品
タオル・ウェットティッシュ／など

非常食品



飲料水・食料品(缶詰、
カップめん、ビスケット、チョコレート)／など

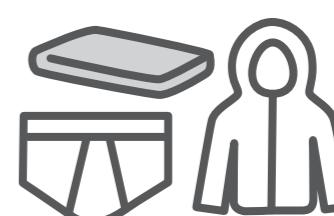
最低、家族全員の三日間分を用意しましょう。
そのままで食べられるものが便利です。



救急箱・常備薬
マスク・除菌用品／など

絆創膏や消毒液が入った救急箱の他、日頃から服用している持病の薬やサプリメントなど。また、感染対策でのマスクや除菌用品も。

衣料品



下着・くつした・長袖・長ズボン・防寒具・雨具／など

衣類は動きやすいものを選びましょう。セーターやジャケットなども防寒具は寒い季節には役立ちます。

県女性協事務局より

今年度より、女性協担当となりました北崎美帆です。

4月に入会した直後に、緊急事態宣言が発令されるなど、予想もしなかつた社会人デビューとなりました。総会が書面決議、リーダー学習会が中止、福岡県家の光大会が中止など、直接人と会うことが出来なくなり、「例年通り」が通用しない1年でしたが、三役をはじめ、組織長のみなさん、そしてJ A事務局の皆さんに支えられ、模索しながら取り組んできました。本当にありがとうございました。J A筑前あさくらの皆さんに支えられ、模索しながら取り組んできました。本当にありがとうございました。

「J A福女協だより」発刊を契機に、県女性協の活動等を随時、掲載しますので楽しみにしてください。

今後も、日々、邁進して、頑張りますのでよろしくお願いいたします！

お住まい地域の避難場所を日頃から確認しておきましょう。

J A女性部が地域コミュニティーの受け皿へ



J A筑前あさくら女性部長 内堀靖子

対し、被害の少なかつた西部の女性部員たちによる炊き出しや支援物資の提供に早急に取り組むことができました。

2017(平成29)年7月5日～6日、記録的短時間大雨に襲われたあさくら地域は、膨大な土石流と流木に瞬く間に飲み込まれてしまいました。1日で約1000ミリに達するほどの豪雨は地形を変えるほどの勢いでした。

九州北部豪雨の際は、県内外から多くのご支援をいただき心より感謝申しあげます。特に県女性協におかれましては役員の方々に日を置かず、直接足を運んでいただき、必要とする品々を分類していただき、すぐに活用することができました。その後も継続的に支援をいただき、おかげさまで2ヶ月後には女性部活動も再開できるようになりました。

農業ボランティアにおいても多くの方にご協力をいただき、復興への道を進めています。管内ではJAの組織があることで、甚大な被害を受けた中・東部に

誰もが予想することのなかつた災害が毎年のように起っています。また今年

は新型コロナウイルス禍という新たな脅威にさらされています。自然環境・社会構造の変化やグローバル化により、いつ何らかの災害が起こるかわからない時代に生きていると考えなければなりません。

今後も、地域の仲間とともに知恵を出し合い活動を進め、一人一人が防災意識を持ち、さらには、他人を思いやり、顔の見える関係づくりを行っていくことで、地域活性化・防災対策につなげましょう。

女性部による防災活動などの紹介



県女性協による物的支援

J A筑前あさくら常勤役員と県女性協役員ら。豪雨直後の7月8日、洋服や下着、女性用品などをJAへ届けました。



女性部の仲間による心温まる炊き出し

災害時、JA筑前あさくら女性部の仲間たちによる心あたたまる豚汁やカレーなどの炊き出しを行いました。



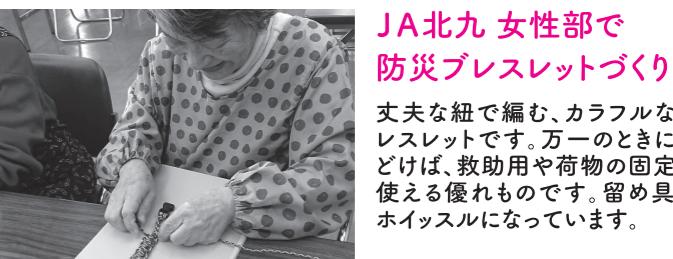
J Aふくおか八女女性部による防災グッズづくり

家の光の防災特集号を参考に、防災手拭いを使ってミニバック、新聞紙で作るスリッパやお湯ボチャ料理などを作りました。女性大学の一環として、防災学習を取り入れています。



夏が来た！三連水車が稼働、地域に笑顔。

土砂で動かなかつた三連水車が稼働しました。(2020.6)



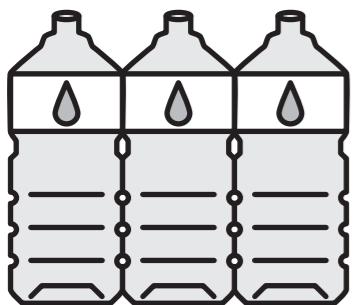
J A北九女性部で防災プレスレットづくり

丈夫な紐で編む、カラフルなプレスレットです。万一小さな落とし物に使われる際には、救助用や荷物の固定に使える優れものです。留め具はホイップルになっています。

『平成29年7月九州北部豪雨』災害にかかるアンケート結果

今後の女性組織協議会の生活支援活動の参考とするため、JA筑前あさくら女性部員にアンケートを実施しました。今回の豪雨災害における「暮らしでの困りごと、気づきや工夫されたこと、うれしかったことやありがたかったこと等」についての声が寄せられました。いただいた声は今後の防災活動の参考にさせていただきます。

- 困ったことはなんでしたか？
- 気づきや工夫されたこと(知恵袋)はありましたか?
- うれしかったことやありがたかったことはありましたか?



- 停電で水道水が出なくなつた。(特にトイレ使用は困った・風呂の水があつたので残り湯で流した)
- 水不足の為、お風呂や洗濯、トイレが困つた。
- 水道水や電気の復旧に時間がかかったこと。停電したので、冷蔵庫が使えず、携帯電話の充電もできず困つた。
- 購入でもいらないのにボランティア4～5人が「手伝えますよ」と強引に家の中の物を運び出されて知らぬ間に持つていかれた。(※ボランティアを装った悪質な被害などにも注意が必要です)
- あつという間に雨水などが建物に入ってきたため、避難できずにいた。状況が早く知りたい。
- 避難所で炊き出しを行つたのですが、人員の確保、食材の確保が大変だった。食事はすべて購入した。しばらくしてグリーンコード生協から提供していただいた。
- 災害時の荷造りにかかる時間と持込み品の選択。
- 避難の際の荷造りにかかる時間と持かない。
- 防災パック等すぐに持ち出せるように準備しておく。時々、中身のチェックをする。
- 自分の命は自分自身で守る適切な判断をするということが大切。

- 災害時、家族と連絡が取れにくかった。
- 避難所で炊き出しを行つたのですが、人員の確保、食材の確保が大変だった。食事はすべて購入した。しばらくしてグリーンコード生協から提供していただいた。
- 災害時の荷造りにかかる時間と持かない。
- 防災パック等すぐに持ち出せるように準備しておく。時々、中身のチェックをする。
- 自分の命は自分自身で守る適切な判断をするということが大切。

- 今まで安易に考えていたが、避難勧告が出たらすぐに非難しないといけないと気付いた。(防災に関して、もう一度見つめ直し、普段からの準備や命を守る行動を取る様に心がける)
- 早めの避難を心がけ、下の方には物を置かない。
- 置き薬を準備しておく。
- 防災パック等すぐに持ち出せるように準備しておく。時々、中身のチェックをする。
- 自分の命は自分自身で守る適切な判断をするということが大切。

- 隣近所の方との日頃のつきあいが大事。
- JA共済(建更)に入つており、すぐによくJA職員が来てくれ安心した。水害でも、保障があったので、入つてよかつたと思った。